

アメリカの住宅の平均寿命は44年！イギリスは75年！

そして、日本の家が短命な理由

1番目に考えられるのは、現存している**住宅の質**が低いこと。住宅そのものが足りなくて、質よりもとにかく量を確保しなければならぬ時期が戦後の日本にはありました。その間に建てられた住宅は、供給を目的としていたために高品質とはいえない。終戦後まもなくそうした家も少なくなり、建築基準法や公庫の基準、品確法なども整備されてきましたので、徐々に住宅の品質はあがってきているとは思いますが…。

3番目に**リフォームのしにくさ**。暮らしていくうちに、間仕切りを取り外したり壁をつくって間取りを変えたりしたくなるものですが、住宅の構造や仕組みがそれに対応できなければ、壊して建て替えることに踏み切る家庭も多いはず。住宅は耐久性があるだけでなく、将来の間取り変更が可能な構造であり、さらにリフォームしやすいように水まわり配管などにも工夫があることが大切です。逆にいえば、こういった条件をクリアしている住宅なら、家族の変化に合わせて、リフォームしながら、常に快適に暮らしていけるわけです。

2番目に

中古住宅の流通が活発でないこと。日本では、通常築15年経つと、建物についての評価はほとんどゼロになってしまうと言われてます。家族構成やライフスタイルの変化とともに、今の住まいを売って住み替えようにも、中古住宅は売却が難しいもの。このような背景もあり、古い物件になればなるほど、売買するより、いっそ、取り壊して建て替えようということになるのでしょう。

使い捨ての思想を止め、長寿命の家を考えよう

今、環境について関心が高まり、いろいろな側面からさまざまな試みや活動がなされています。住宅を取り巻く問題も同じだと思います。住宅を使い捨てにするのではなく、環境の面からもスクラップ&ビルドを極力減らし、できるだけ長く快適に暮らせる家を検討する必要があると思うのです。

※ 年に一度、防災について考えましょう!

これだけは用意しておきたい非常持ち出し袋の中身



懐中電灯
非常食・水

毎年9月1日の「防災の日」は、1923年（大正12年）のこの日に起きた関東大震災の教訓を忘れない、という意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて1960年（昭和35年）に制定されたものです。（暦の上では立春から数えて210日目を特に「二百十日」と呼びます。ちょうど稲の開花期に台風が来たり強風が吹き荒れることに注意を促したときたりと言えます）
非常持ち出し袋の中身は、一人で持ち出せる最低限のものを。また、一年に一度は必ず点検、電池やミネラルウォーター、缶詰などは古くなっていけば新しいものと交換します。

その他にも、災害直後には持ち出せなくても後々使用できるように水やインスタント食品を別にストックしておくで安心です。

阪神淡路大震災では、家具や家電の転倒による被害も多く報告されています。不安定な家具、また危険なものがないかなど、この機会にぜひ今一度家の内外の点検を！

※最近では、たためる防災用ヘルメットというのものも、

売れてるそうですね。ちなみに、価格は、5,000円程度だそうです。



携帯ラジオ、救急キット
靴下・軍手・下着・生理用品
トイレ用紙・ウェットティッシュ

保険証・現金など



ミケニ工務店 No.1



※ 今回の選挙に思う

お恥ずかしいことですが、今回の選挙は真剣に取り組もうと考え、マニフェストなるものや新聞を真面目に読むようにしました。

今までは、不明な語句について何気に通過ぎて、終わりにしてしまいましたが、今は、分からない言葉や疑問に思ったことなどについて、インターネットで調べながら読むようにしてきました。

つくづく、インターネットの便利さを感じますね。ただ、調べるときは、主観や感想も頭に入ってしまうので、客観的事実をとらえるように注意しようと思っています。

今更ながらですが、投票する側も政治に近づかなければと反省しきりです。



なめ茸オクラ
オクラ 10本
瓶詰なめこ 大

ちやちやっと作れて、ズズッと食べれる 夏向けメニュー♪

- ①オクラを塩茹でして、きざむ
- ②なめ茸を混ぜ合わせて、冷蔵庫で冷やしてはい出来上がり!



笑って笑って ハイ!笑って

ある日、会社で肴を持ち寄って宴会をしたときのこと。
刺身のトレイの中にわさびが見あたらずに中身をひっくり返したら、ツマの下に埋もれていた。
僕は、軽い冗談のつもりで「ツマの下敷きなんて、うちと一緒だ」と言ったら、一同静まり返ってしまった。

家を空けることの多い私は、田舎のおふくろに「FAX送って」と言ったら、2・3日してダンボールに包まれた「本体」が送られてきた。



知人の父親が亡くなった。3週間もしないうちに、母親も亡くなったお悔やみの電話をかけた時、「まとめて、逝ってしまわれ」と、言ってしまった。



私の友達は物心ついたときからずっと、父親に「動物園だ」といって毎週競馬に連れていかれていた。小学校の遠足ではじめて本物に行き、「馬だけじゃないんだ」と目を輝かせていた。

